

## ❀ 韓日発掘交流に参加して

国立慶州文化財研究所と奈良文化財研究所の発掘調査交流の一環で、初めて奈良を訪問し、2017年9月11日から11月2日まで東大寺東塔院跡と藤原宮大極殿院の発掘調査に参加しました。日本語があまりできず、意思疎通の難しさはありましたが、どちらの遺跡も韓国で私が発掘調査に携わった百済王興寺址や新羅王京遺跡等と比較できる遺跡で、興味深い成果を得ることができました。

東大寺東塔院跡の発掘は東大寺、奈良県立橿原考古学研究所との合同調査で、様々な機関の研究者と一緒に発掘しました。滞在中、現地説明会にも参加する機会がありました。800名を超える見学者が訪れたことが印象的で、慶州での発掘現場の一般公開のあり方を考える上で参考となりました。藤原宮大極殿は天候不順のため調査参加日数が少なかったのが残念ですが、発掘調査の開始時期に立ち会うことができ、貴重な体験となりました。

発掘調査のほかにも須恵器窯等の遺跡や博物館の見学、研究者との出会いを通じて、韓日の古代文化の比較や遺跡の整備・復元等の活用について考える時間をもてたことも、非常に意義深いものでした。

最後に滞在期間中、発掘調査や遺跡踏査、日々の生活を無事に終えるにあたって、様々な配慮をしてくださった研究所の皆様にお礼申し上げます。今後も両機関の持続的な交流が、個人の研究力増進だけでなく、両国の古代文化研究の一助となる基盤となっていくことを願います。

(国立慶州文化財研究所 鄭 聖睦、  
翻訳 諫早 直人)



東大寺東塔院跡での作業風景